

瀬戸内かわいい部とは、瀬戸内のかわいいモノ・コトに焦点をあて、その魅力を発信していくコミュニティです。

2018年、西日本豪雨で被災し観光客が減った故郷を盛り上げようと、代表の梅崎が岡山県倉敷市美観地区の様子をYouTubeで発信。この動画を見た関東の知人が実際に岡山を訪れ、楽しんでくれたことをきっかけに活動が始まりました。

「岡山って何もないと思っていたけれど、それはただ私が知らなかっただけかもしれない。本当は、岡山や瀬戸内にはもっと魅力的なもの、かわいいものがあるのかもしれない」ということに気がつくようになります。

そこからSNSでの発信や、フォトウォーク（広島県尾道市、香川県男木島・女木島）や、和菓子さんぽ（岡山県倉敷市）、写真展（東京）、交流会（岡山県岡山市）といったイベントの開催を通して、「瀬戸内かわいい部」（通称せとかわ）の輪は少しずつ大きくなっていきました。2019年には岡山県主催の移住フェア「瀬戸内おかやま移住・仕事フェア」（東京）にて写真展示やワークショップ、トークイベントを開催するなど、行政の方と一緒する機会もいただけるようになりました。

そんな瀬戸内かわいい部の活動の一環として生まれたのが「せとかわデニムプロジェクト」です。

せとかわデニムプロジェクトは、「瀬戸内かわいい部」と「IONAMI」という瀬戸内は児島を活動拠点とするデニムブランドがコラボし、瀬戸内デニムを使って「瀬戸内デニムピクニックシート」を製作した商品開発企画です。

瀬戸内はデニムの一大生産地。このプロジェクトは広



瀬戸内デニムピクニックシート

まちむら発見①

## 瀬戸内デニム ピクニックシート商品企画開発

岡山県岡山市南区 瀬戸内かわいい部

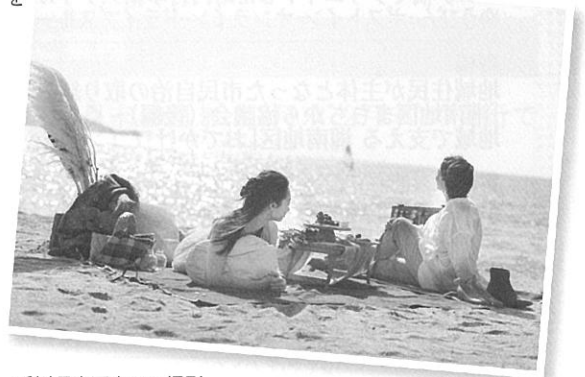
島県福山市にあるデニム工場「篠原テキスタイル」さんにご協力をお願いしました。そしてデニム生地を生産の過程で生まれるB反（小さな傷やほつれがあるため市場に流通されない廃材）を活かして「かわいいデニムアイテムを作るう！」というミッションを掲げることに。

そんな商品企画への想いと共に、瀬戸内に関わりがある方を条件にHPやSNSを利用し、メンバーを募集。それらに賛同した16人のメンバーとともに活動を行いました。

実は1年限定のプロジェクトでしたが、反響の大きさや必要とされるプロジェクトに育ったことから、継続が決定。

Season2では、Iターンで香川に移住してきたメンバーも参加。「瀬戸内の素敵なところをもっと知りたい・好きになりたい、そして日々もっとワクワクしたい」それらを見つめられる場所を探して瀬戸内かわいい部にたどり着いてくれました。

まず、ピクニックシートを作るに至った理由としては、瀬戸内の海の青さやまどろむような穏やかな時間とデニムのアクティブさや使えば使うほど馴染んでくる相棒感、



香川県小豆島にて撮影

倉敷市児島DENIM HOSTEL floatで開催したイベントの様子



そして世界的にも知られる瀬戸内デニムの品質はもちろん、生産者や技術のことも知って欲しい。

さらに、出来上がった商品を持っていく人同士がどこかでつながり、それをきっかけにいろんな輪が広がって欲しい、という想いからたどり着きました。

商品名は生地のも多様性も伝えるべく、瀬戸内海的时间里に移り変わる空の色で表現しています。Season1は「夜明けの海」「茜空の海」「夕影の海」「星空の海」「真夜中の海」「花曇りの海」。Season2は「晴天の海」「かすみ空」「砂浜」「流れ星」を発売。瀬戸内デニムピクニックシートこそが瀬戸内海というイメージです。

さらに商品のタグには実際に複数のメンバーが全く同じ場所で撮影した、瀬戸内海の空の写真をほぼ無加工で使っています。その撮影場所は、今回コラボさせていただいたTONAMIさんの拠点である、泊まれるデニム屋「DENIM HOSTEL float」さん。

ここから見える景色がどの時間を切り取っても素敵で「私たちが慣れ親しんでいる瀬戸内海をピクニックシートと共に届けたい、その風景を丸ごと閉じ込めたい」という想いで今回のタグデザインが生まれました。

たくさんのメンバーが関わってくれたこのプロジェクトですが、それぞれの居住地域も岡山をはじめ、香川・兵庫・京都・滋賀・東京・神奈川県など全国に散らばって



交流イベントの前に準備をするメンバー



生産者さんからB反デニムの説明を受けているところ

ます。日々SAGEやNOOEなどのオンラインを基本としたやりとりを重ね、商品の企画開発はもちろん、イベント準備までも全員が主役となって準備を進めることができました。

そして気がつけば、年齢や職種など置かれた立場が全く違うメンバーが揃う中で、それぞれが得意分野を生かし「やりたかったこと」を実現する場になっていきました。仕事があっても、子どもがいても、年齢を重ねても「諦めなくていい」と思えるような、女性が活躍するための場づくりにもなっただと思います。

きっとそれは、瀬戸内に住む人に加え、瀬戸内を愛する人、瀬戸内に興味のある人、瀬戸内をもっと知りたいたいという人たちが集まったからこそできたプロジェクトだったと思っています。

何より嬉しかったのは、メンバーが、瀬戸内をより深く知ることができ、より好きになれたこと。さらには、プロジェクトでつながったご縁から活躍の場を広げていった人もいること。そしてメンバーが今後も瀬戸内のために何かやっていきたい、という想いを持つことができたのは本当に嬉しい結果です。

また、瀬戸内の地域プレイヤーから瀬戸内デニムピクニックシートやそのストーリーに興味・共感を持っていただく機会も多くなりました。

今回コラボさせていただいたTONAMIさんをはじめ、商品をもって集客やイベント企画などのネットワーク作りにつなげるきっかけにもなっています。今後の展開が楽しみです。

(瀬戸内かわい部運営メンバー 梶原麻美子)